

# 住吉っさん





牛步  
千里



住吉大社宮司道弘書



# 牛歩千里

(牛の歩みも千里)

千里の道も一歩より

それぞれの小さな一歩一歩の努力 我慢 心掛けが

蔓延する疫病に打ち勝ち 沈静化させるのではないか

明るいうちを迎えるには 今ひと踏ん張りが必要であると思われる

止まない雨は無い 明けない夜は無い

新年には一日も早く平年に立ち返る事を祈ります



住吉大社宮司

高井道弘

# おもちゃの神さま 住吉っさん

がんぶつしょうじょうやいしどうろう

## 翫物商常夜石燈籠

— 令和の大改修 —

に石燈籠を建立しました。それ以後、石燈籠をよりどころに玩具・人形商たちの信仰の中心地となりました。

現在では翫物商住吉講の後継講社である大阪玩具・人形住吉講の定例参拝と総会が行われ、国内すべての玩具・人形業界の繁栄と発展を祈願しています。また、その伝統によって日本全国の玩具・人形関係者からも崇敬されています。

令和2年（2020）11月20日、石燈籠の第6次改修工事が竣工となりました。令和の新しい御代と御大典を奉祝し、また、建立260年を記念してのことです。石燈籠の修復再建は、文化5年（1808）、明治15年（1882）、昭和3年（1928）、昭和36年（1961）、平成3年（1991）と時代を超えて受け継がれてきました。本事業にご尽力いただいた大阪玩具・人形住吉講の講元 熊本和浩氏（60）は「この石燈籠は私たちの誇りです。業界の先人たちに敬意を表するとともに、玩具・人形の伝統を顕彰して後世に受け継いでゆきたいものです」と語られました。

翫物商という、何やら難しい言葉のようですが、いわゆる「おもちゃ」を取り扱う業者のことで、人形や玩具の製作、販売や流通に関わりました。

江戸時代の上、特に大坂（大阪）は、玩具・人形などの翫物の中心地でした。京都からは人形の顔や西陣織の雛着物などが大阪に運びこまれ、大阪では雛飾りなどの玩具を全国に出荷し、また、全国の玩具・人形も大阪に入荷されて賑わいました。そして、その流通を支えたのは海運でした。

江戸時代の翫物商は住吉大社に参拝し、商売を支える海運の守護ばかりでなく、業界の安全と繁栄を祈願してきました。そのため結成されたのが「翫物商住吉講」でした。結成年代は不詳ですが、遅くとも宝暦5年（1755）には活動が記録され、宝暦12年（1762）



翫物商常夜石燈籠（南基）





五井蘭洲筆「常夜燈」

「常夜燈」の文字は五井蘭洲（1697～1762）の筆で、江戸中期の大坂・懷徳堂でも教育を行なった儒者・国学者。石燈籠の建立年代から最晩年の書跡と思われる。

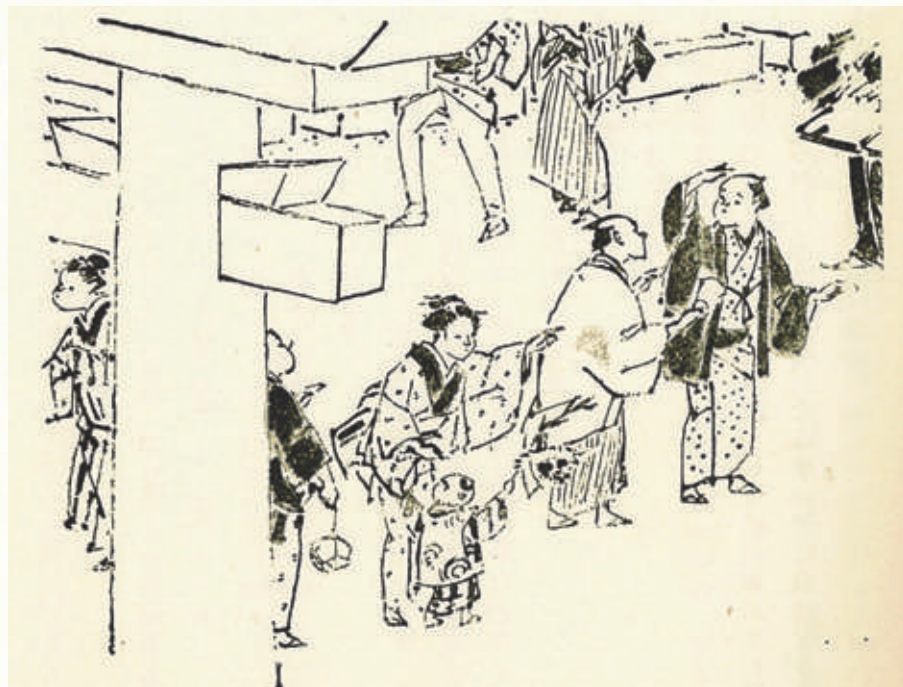


大阪玩具・人形住吉講（講元 熊本和浩氏）が中心となり、大阪府玩具・人形問屋協同組合連合会、大阪大物玩具問屋協同組合、大阪府玩具問屋協同組合、大阪府人形問屋協同組合、大阪玩具事業協同組合、一般社団法人日本玩具協会、東京玩具人形協同組合、関西節句人形工業協同組合、日本プラモデル工業協同組合のご協力のもと、次の会社および篤志者によってご協賛をいただきました。謹んで御礼を申し上げます。

株式会社クマモト・同 熊本和浩氏・同 城 淳氏・同 井上洋一氏、株式会社熊本玩具・同 熊本盛行氏、株式会社スターコーポレーション、テイクハート株式会社・同 根岸秀和氏・同 松浦元輝氏、尾上敬一氏、株式会社甲山屋、株式会社辰巳屋、株式会社龍屋・同 徳永隆司氏・同 徳永和浩氏、株式会社トキワ商事、株式会社久宝堂、人形の熊野・同 熊野建介氏・同 熊野恵律子氏、株式会社人形の天明館、株式会社増村人形店・同 増村和行氏・同 増村智章氏、株式会社山本人形、会社イシグロ・同 石黒浩三氏、株式会社尾上萬、株式会社中須金属工業所、株式会社成近屋、株式会社ヘル玩具・同 松葉善治氏、株式会社ムラオカ・同 村岡邦廣氏、株式会社藤井玩具店・同 藤井真一氏、京都あしだや中山人形店、株式会社アガツマ・同 戸所正信氏、石川玩具株式会社、株式会社エポック社・同 前田道裕氏、株式会社オランダ、株式会社カワタ、コンビ株式会社、株式会社サンヨーフレジャー・同 高谷昌宏氏、株式会社ジョイパレット、株式会社タカラトミー・同 富山幹太郎氏・同 富山彰夫氏、株式会社タカラトミー・同 小島一洋氏・同 鴻巣崇氏、株式会社タカラトミーアーツ・同 宇佐美博之氏、株式会社タカラトミーマーケティング・同 小越良充氏、株式会社トミーテック・同 岩附美智夫氏、パイロットインキ株式会社、株式会社ハナヤマ・同 小林邦広氏、株式会社ハビネット、株式会社パンダイ、株式会社バンダイロジバル、株式会社ビバリー・同 神下英輝氏、株式会社増田屋コーポレーション・同 齋藤晴正氏、株式会社メガハウス、株式会社やのまん・同 矢野美津子氏・同 矢野成一氏・同 矢野宙司氏、株式会社吉徳・同 山田徳兵衛氏、月刊トイジャーナル、日本トイズサービス株式会社、株式会社トイカード、以上。

# 住吉と落語

嘶家 桂 文我



住吉駕籠 桂米朝『米朝上方落語選』立風書房 昭和45年

令和二年春先から、新型コロナウイルスのため、世界中の時間が止まったと言っても過言ではないだろう。

いつになれば、ウイルスの感染拡大が収まるのか、全く先が見えないが、その時代に居合わせた因果で、世の流れに付き合うしかない。

昔から日本には「苦しい時の神頼み」という言葉があるが、この度は、ウイルスの力の方が強かったように、三密を避けるため、神社のお参りさえ控えなければならなかった。

全国各地で行われる「疫病退散の祭り」でさえ、中止になることが大半だったと聞いている。

「こんな時こそ、疫病退散の祭りを派手に行うべきだ！」という意見



もあるが、それは理屈上の話であり、実際の開催が難しいのは、誰もが百も承知だ。

しかし、ウィルスの正体が少しずつわかり、対処方法が見つかれば、更なる安心を求めている。全国各地の神社のお参りが盛んになることは間違いなく、住吉大社の参詣も、再び活況を呈するであろう。

この度、「住吉と落語」をテーマにした原稿依頼をいただいた。

彼方此方に話が飛ぶと思うが、ご容赦いただき、私の戯言にお付き合いを願いたい。

三重県松阪市の山間部で生まれ育った私が、初めて住吉大社の存在を知ったのは、小学四年生の頃、名古屋の叔父が買ってくれた『米朝上方落語選』（※桂米朝の最初の個人全集。立風書房に収録されていた「住吉駕籠」からだっ

た。このネタの面白さは、小学生には理解しにくい内容だとも思うが、貪るように読んだ結果、お気に入りのネタとなり、中学校の図工の時間に、その本の挿絵で描いてあった四世長谷川貞信画伯の住吉大社前の絵も、エッチングで模写したことを覚えている。

「住吉駕籠」は、住吉大社の鳥居前で、駕籠屋が客待ちをしている所に、難儀な酔っ払いが登場した後、堂島の米相場師が内緒で二人乗りをし、駕籠の底を抜いてしまう。

「上る、上がる」という言葉が好きな強気

の相場師だけに、駕籠からは降りず、駕籠屋が担ぐままに、底が抜けた駕籠の中で相場師も歩くという不思議な展開になって行く。

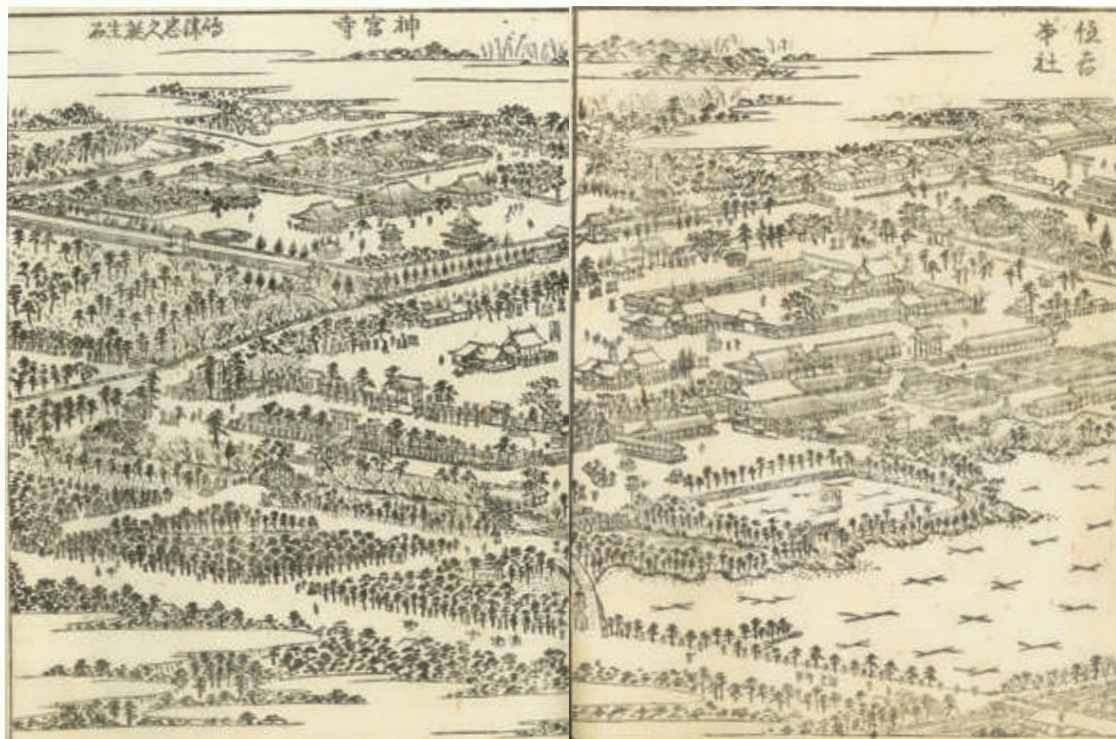
それを見ていた子どもが「あの駕籠屋の足は、八本ある」と父親に言ったので、「あれが、ほんまのクモ駕籠や」と言うのが、「住吉駕籠」のオチとなるが、これは「宿場・立場で、蜘蛛が巣を張るようにして客を待つことや、空を流れる雲の如く、彼方此方へ仕事の場を移すことから、クモ駕籠と言うようになった」という語源に基づいたオチである。

「住吉駕籠」のオチは、もう一つあり、「雀駕籠」とも言う。

ようやく乗せた客から、「駕籠の担ぎ方が上手じゃ」と誉められたので、駕籠屋が調子に乗り、急に関東弁になり、「わっちは、東海道を股にかけた駕籠かきさ。自慢じゃねえが、『宙を飛ぶようだ』ってんで、雀駕籠だと、仲間内で言われたのよ」と言うのと、「雀駕籠とは面白いが、一寸も啼かん」と言われたため、仕方が無いので、雀の啼りを始め、続けて、烏・トンビと客の注文通りに演った後、「駕籠を啼け」と注文されたことで困り果て、「駕籠は、まだ、籠馴れません」というのがオチとなるが、この演出で上演する噺家は少なくなった。

因みに、このネタの原話は、『浮世絵ばなし』（寛政版）の「おどし」、江戸版『軽口福徳利』（宝暦2年〔1752〕の「五十から」、江戸自慢」（初代





住吉本社・神宮寺 『摂津名所図会』 住吉郡

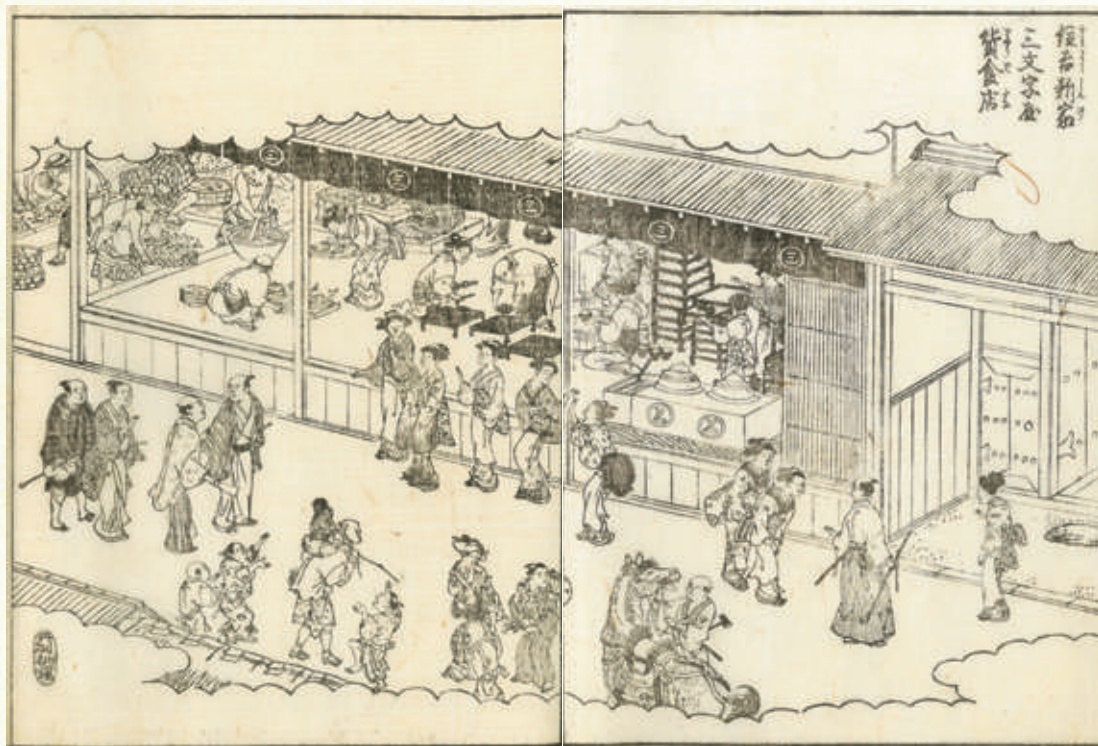
三笑亭可楽作。文政6年(1823)の「鳥づくしの駕屋」、京都版『軽口初商買』(享保12年(1727)巻二の「乗手の頓作」などに、分け分けで含まれているようだ。

駕籠の底が抜けるという場面は、大坂版『通者茶話太郎』(寛政8年(1796)。鉄格子作)の「笑を掩て底なき竹輿(かご)に乗話」を採り込んだようだが、『通者茶話太郎』は、安永年間(1772-81)の頃、大変な遊び好きで、大酒呑みだった、大坂船場淡路町の富豪・河内屋太郎兵衛、通称・河太郎と言う粹人の奇行を描いた、江戸時代の小説である。

難儀な酔っ払いが立ち寄り、酩酊するまで酒を呑んだ店は、住吉の名店・三文字屋<sup>さんもんじや</sup>で、伊丹屋・昆布屋・丸屋と並ぶ、住吉大社北側の新家(※現在の大阪市住吉区東粉浜近辺)に実在した料理屋だった。

この店は逸話も数多くあり、赤穂浪士の夜討ちの道具を拵えた天野屋利兵衛が依頼した下請けの職人達に臨時収入が入ったことで、高級料亭・三文字屋で宴席を持ち、





住吉新家 三文字屋 『摂津名所図会』住吉郡

酒が言わせる高話が、隣り座敷に居た大坂町奉行所の与力の耳に入り、天野屋の捕縛（ほく）という顛末（てんまつ）になったと言うし、坂本龍馬が宿泊したことを御存知の方も居られよう。

現在の大阪府北中部と兵庫県南東部を、昔は摂津国（せつ）と定め、その名所を紹介した『摂津名所図会』の住吉郡の部に、三文字屋の繁栄の様子が描かれているし、幕末の大坂の料理屋・菓子屋などを着色で描き、後に復刻された『花の下影』では、「住吉新家・柏戸」の暖簾（のれん）に、丸に三が染め抜いてあるため、復刻本の解説に「この店が、三文字屋という料理屋だろう」と記してある。

「住吉駕籠」の話が長くなったが、他にも住吉界隈が舞台になっている落語も数多くあるので、幾つか紹介してみたい。

江戸時代から語り継がれている落語に、「卯（う）の日詣り」（別題・せむし茶屋）がある。

背中が弓なりに曲がっている金持ちの旦那が、出入りの男の顔に膏藥・梅干・綿などを貼り、かつたい（※ハンセン病に感染し、風貌が変わった）





住吉新家柏戸（左） 丸太格子（右）『花の下影』清文堂出版 昭和 61 年

てしまった者」のような顔に  
仕上げて、卯の日に住吉  
詣りに行き、お茶屋に上  
がる。

仲居達が嫌がる姿を見  
て、旦那は大喜びだった  
が、出入りの男は怒り出  
し、顔の膏藥を剥がすと、  
美男の顔が現れた。

その趣向に仲居達が驚  
き、旦那に「お宅も、背  
中の箆（いかき。ざる）  
を出しなはれ」というの  
がオチになる。

テレビ・ラジオなどに  
は相応しくない内容と思  
われるため、上演する噺  
家の数も減ったが、実際  
の高座で聞いていただくと、誠に洒落た内容と理  
解していただけるだけに、  
滅ぼすのは惜しいネタと  
言えよう。

住吉の地に、神功皇后  
が住吉大神を祀ったのが、  
辛卯の年（211）卯月の  
上の卯日とされているた  
め、卯の日に住吉大社に



詣でることが盛んになり、殊に五月上の卯の日に齋行される卯之葉神事には、近郷近在から大勢の参詣人が訪れ、例年、大いに賑わった。

卯の日詣りを舞台にした落語は、他にも「箒屋娘」というネタがある。

船場の大店の若旦那が家に籠もり、本ばかり読んでいるのを心配し、親旦那が番頭に命じて、丁稚を付け、卯の日詣りに出させた。

住吉辺りの茶店で休んだ時、その近くで、みすばらしい身形でありながら、美人の娘が箒・切り藁・ささらなど売っていたので、全てを買い求め、病気で臥せているという父親の見舞いとして、三両を渡す。

娘の後を随いて行くと、哀れな長屋に帰り、若旦那にいただいた三両を、娘が父親に渡すと、父親は若旦那に返してくるよう言い、その高潔な料簡に感心した若旦那が、娘を嫁に娶するという、滑稽ながら、人情溢れる逸品が「箒屋娘」という落語なのだ。

戦後、上演者が減った落語だが、構成・演出・内容と、どこを取っても上等だけに、これも埋もれるネタではない。

また、寄席や落語会で上演されることの多いネタで、住吉界限の登場するのが、「始末の極意」である。

関西以外で「始末」と言うと、「殺す」と

いう意味だと思う方も多い。

そうなると、「始末の極意」という落語は、「殺しの極意」ということになり、落語より、サスペンス映画の題名になりそうだ。

関西で言う「始末」は「儉約」という意味で、儉約の名人が、儉約を習いに来た者に極意を話す中に、住吉界限が登場する。

一錢玉を二枚持ち、住吉大社に参詣し、四社の社を次々に巡り、それぞれの賽銭箱の縁に、一錢玉を一枚置き、「天下太平、五穀豊穰、家内安全」と祈り、放り込まない。

最後に第一本宮の賽銭箱に放り込んで、「ご一統さんで！」と言い、神様に一錢を仲良く分けてもらおうという算段。

残った一錢で飴を買い、近所で遊んでいる賢そうな子に与えると、親に見せに帰ったので、後を随けて行き、その子の家の前を通った時、母親に見つけてもらい、煙草・昼飯・土産の漬物までせしめるという見事な知能作戦を、儉約の名人が丁寧に語るといふ、良く出来た落語もある。

その他、住吉が登場する落語は、恐らく、五十以上はあると思う。

減んでいるネタも復活させ、少しずつ上演する機会を作りたいと考えている。

回りでどの表現も多かったが、住吉に関する落語の一端を垣間見ていただいた。

この度は、これにて、お開き……。

## 神稜講 しんりょうこう

大阪心齋橋の老舗を中心に結成した講社です。明治維新の後、心齋橋の内本氏を中心に、石川伊助、亀島善兵衛、岡本音次郎、橋本市松などが旧来の住吉講社を再組織、神稜講となり今日に至ります。住吉大社の定例参拝と会員の親睦をはかることを目的とし、現在も心齋橋筋商店街や有志が参加しています。

反橋と幸寿門の間にある手水舎は神稜講が奉納したもので、神兔がモチーフの手水鉢は昭和37年の奉納（前年の式年遷宮の記念）で、覆屋は昭和45年の奉納（昭和天皇皇后両陛下御参拝記念）です。



## 御神酒講 おみきこう

地元の酒販業の有志によって構成し、住吉大社の日供・祭典において供える神酒をお世話する講社です。戦後の物資不足のなか、住吉大社の祭典の献酒を維持するために近隣の小売酒販店が集まり、昭和28年7月22日に講社を結成したのに始まります。定例参拝のほか、住吉祭の渡御には袴姿で供奉し、鳳輦の後衛をつとめています。

講元 池田雅昭





## 神馬講 しんめこう

住吉大社の神馬の維持・育成をお世話する講社です。江戸時代、大坂炭屋仲間の呼びかけによって住吉神馬の飼馬料を世話することが始められました。炭屋は日ごろ黒いものを扱うため、その反対の白い馬を神前に奉納することを慣わしにしたと伝えられます。現代では、燃料の主体が木炭から化石燃料等へと変化しましたが、後継の有志のもとで伝統が受け継がれています。

正月7日の白馬神事、住吉祭の渡御など神馬が奉仕する祭礼には必ず参列、供奉を行なっています。

講元 河村博史



## 御文庫講 おぶんこう

大阪最古の文庫、住吉御文庫の維持・管理をお世話する講社です。正しくは大阪書林御文庫講。江戸時代の享保8年（1723）、大坂・京都・江戸の本屋が住吉大社に御文庫を寄進したことに始まります。それを受けて、宝暦年間（1751〜64）浪華文庫講が結成されました。明治7年に住吉御文庫講が再結成され、明治43年には天満御文庫講と合併して大阪書林御文庫講となりました。

定例参拝ごとに献本を行ない、出版文化の顕彰、出版業界の繁栄を祈願します。また、有志による曝書（本の虫干）も奉仕しています。

講元 藤波優





# 住吉さんと太閤さん 第一回

——近松門左衛門『本朝三國志』住吉詣の創作をめぐる——

北海道大学大学院／日本学術振興会特別研究員  
竹内 洪介

住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心にして、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみたいと思います。



近松門左衛門『本朝三國志』の台本  
(国文学研究資料館所蔵、CC BY-SA 4.0。  
画像は一部トリミングして加工した)

今回取り上げるのは、江戸時代中期の享保四年（一七一九）二月に近松門左衛門が手掛けて上演された浄瑠璃『本朝三國志』です。題名には「三國志」とありますが、「本朝」（日本）とつくことから明らかに、日本（戦国時代）を舞台にするものです。中国の「三國志」では魏・呉・蜀の興亡が描かれますが、五段構成の『本朝三國志』では、最初の三段で織田信長・明智光秀・豊臣秀吉の三人の戦国武将の勢力交代を脚色し、後半の二段で天下統一を果たした秀吉の朝鮮出兵とその戦勝を扱っています。後ほど詳しく説明しますが、



実はこの作品は、秀吉の伝記的作品群の中で初めて住吉大社を主要な舞台の一つとして登場させたものでした。そしてこの作品をきっかけとして、住吉大社は史実とはまた違った形で秀吉とかかわっていくことになります。では、いったいどういうわけで、秀吉の伝記的資料に住吉大社が関係することになったのでしょうか。

この疑問について考えていく前に、まず、基本的な情報から紹介しましょう。『本朝三国志』の作者である近松門左衛門は、当時大坂（江戸時代では大坂と表記、以後大坂で統一します）で活躍した浄瑠璃作家であり、江戸時代における代表的な作家のひとりでもあります。竹本座という劇場の専属作家となり、『国性爺合戦』や『心中天網島』等数々の名作を残しています。『本朝三国志』もそれらと同時期の作品であり、近松の脂の乗り切った時期に上演された作品といえるでしょう。本作は近松の作品の中で格別にヒットしたものではありませんが、実はこれがきっかけとなって、江戸時代後期に秀吉を主役・脇役とした演劇作品が続々と作られることになったとされています。

また、近松はこの『本朝三国志』を執筆するにあたって、史実に大幅な脚色を加えました。登場人物についても豊臣（羽柴）秀吉は高富（真柴）久吉に、織田信長は小田春長にといった具合に名前および設定が変えられ、大まかな歴史の流れをなぞりつつ、かなり自由な創作がなされています。この結果、それまで秀吉の伝記的作品で扱われることがなかった住吉大社が、本作

では久吉（秀吉）が天下統一を果たし、朝鮮出兵を行うにあたり戦勝祈願に訪れる場として登場します。しかも、新たな物語の始まりの部分ともいえる第四段の冒頭部分（これを専門用語で「口」と言います）を飾る役割を与えられているのです。久吉（秀吉）は派手な衣装に身を包み、配下の名だたる武将に傳つたわられた伏見から住吉まで参詣し、その道中が華麗かつ音楽性豊かに描かれます。第四段にはこうした移動感を伴う音曲的な間かせどころが組み込まれるのですが、これを道行と言います。これは近松以降の浄瑠璃作品では原則的なものです。近松は、『本朝三国志』の道行の場面に、伏見から住吉大社への「旅」を据えたのです。

ところが、少なくとも一次資料から辿る限り、秀吉が朝鮮出兵の際に住吉大社に参詣したという史実は見当たりません。これはどうしたことでしょうか。いきなり歴史的な側面を考える前に、まずは『本朝三国志』の成立事情を押さえておきましょう。

享保四年（一七一九）二月に上演された本作は、その年の九月から江戸幕府八代將軍徳川吉宗の就任を祝うべく朝鮮通信使が来日するというニュースがきっかけとなって執筆されたと考えられています（近松全集 第十一巻「解説」、須田努「江戸時代 民衆の朝鮮・朝鮮人観」など）。朝鮮通信使は大坂・京都に立ち寄ることが決められていたため、このニュースは大坂において大いに関心を集め、その関心に応える形で通信使来日前に『本朝三国志』が作られたとされています。重要なのはこの時（享保四年五月）、竹本座の近松門左衛門だけでなく、同じく大





朝鮮通信使一行の行列図（東京国立博物館蔵『朝鮮人行列図巻』より、画像は一部トリミングして加工した）。画面右側の白馬に乗る使者が赤箱に入った国書を携えている。画面左側の輿に乗る人物が正使。

坂の豊竹座の紀海音も朝鮮通信使来日に影響されて浄瑠璃『神功皇后三韓責』を発表したということです。紀海音という浄瑠璃作家は現在あまり有名ではありませんが、近松を超えるヒット作を叩き出したこともある人気作家だったということも明らかになっており、近年再評価がなされてきています（富田康之「海音と近松」）。『本朝三國志』も『神功皇后三韓責』もざっくりと言えば「日本が朝鮮を攻めて勝った」という内容で作劇がなされました。これは朝鮮通信使の来日目的を「日本への朝貢」と考える江戸時代の民衆の解釈を反映したものです。彼ら民衆は神功皇后の三韓攻め以来欠かさず行われるべき朝鮮による日本への朝貢がいつしか中断され、それに対する咎め立ての意味から秀吉が朝鮮出兵を行った結果、朝貢が再開されるようになった、という歴史認識を持っていたということが指摘されています（塚本明「神功皇后と近世日本の朝鮮観」、井上泰至・金時徳「秀吉の対外戦争」など）。したがって、朝鮮通信使の来日に合わせて日本が朝鮮に勝利した内容の作劇を行うことは、民衆の歴史認識に適ったことでした。この歴史認識は近松も共有していたと見るべきでしょう。

ちなみに、紀海音の『神功皇后三韓責』とは日本の第十四代天皇・仲哀天皇の皇后で摂政を兼任して務めていた神功皇后が日本軍を率いて朝鮮（三韓とはわかりやすく言うところ朝鮮半島南部のことです）を攻めた、という伝説を劇化したものです。この話の元となった伝説は後々重要になってくるので先に述べておきますが、この三韓攻めに当たり、神功皇后は住吉大明神の神託を受けたとされ、またこの三韓攻めの帰路において神功皇后が住吉大明神の御神託のままに鎮祭を行った地こそが現在の住吉大社であるとされています。この結果、神功皇后は住吉大社の御祭神としても祀られることになっています。

これを踏まえて歴史的な方面に目を向けると、長門（山口県）で秀吉が神功皇后の社祠を拝したり、その配下の軍勢が朝鮮の城地を征服した際には吉川広家軍の従軍禪僧によって神功皇后追憶の詩文が詠まれ



たりするなど、史実としても秀吉の朝鮮出兵が神功皇后の伝説を意識していたことがわかっています（北島万次『豊臣政権の対外認識と朝鮮侵略』）。加えて、伝承に留まるものではありませんが、秀吉が伏見から出陣する際に、神功皇后を祀る伏見の御香宮で「出征」の式を行ったという逸話もあり（前掲塚本論文）、しかも御香宮側も江戸時代を通じて、神功皇后の霊験あらたかな社として、秀吉の花押入りの文書を偽造までして自社の正当性を主張していたことも明らかになっています（久世泰政「近世・近代初頭における神功皇后伝承」）。

以上のような背景を踏まえるならば、秀吉が朝鮮出兵時に住吉に詣でたのは近松の創作であったと考えてよいように思われます。さらに先行研究は、本作が小瀬甫庵『太閤記』を下敷きに成立したことを示してもいます（須田前掲論文）が、その『太閤記』には住吉詣の記事が見当たりません。前振りが長くなりましたが、ではなぜ秀吉は住吉に詣でることになったのでしょうか。

これについて、近松門左衛門が住吉大社と深いつながりがあったことを解き明かしたのが山崎（正木）ゆみ氏の『近世文芸と住吉社』です。山崎氏は、元禄五年（一六九二）以前に上演されたことが知られる近松作の『天智天皇』



一勇齋国芳画「神功皇后三韓征伐之図」  
（立命館大学アート・リサーチセンター所蔵 [arcUP4355]、画像は一部トリミングして加工した）。



という浄瑠璃を例に、近松と住吉の関係を分析しています。そしてその検討を通じて、近松が『天智天皇』に住吉大社の伝承やイメージを幾重にも組み合わせて作劇を行っていたことを明らかにしています。つまり、近松は住吉社の伝承やイメージなどに精通していたということです。山崎氏はこれについて、「近松は、ファンタジックな展開の中にも、大坂や堺の観客にとっては、どこか親しみやリアリティも感じることができる舞台を創り上げることに成功している」のではないかと推察しています。それは今回考察に挙げた『本朝三國志』の世界にも当てはまることでしょう。当然、近松は上述したような神功皇后の逸話および住吉大社との関係を熟知していたに違いありません。実際、『本朝三國志』の最後の章は「御前あやつり／男神・功皇后」と名付けられており、近松が住吉大社の祭神神功皇后の伝説を意識して作劇したことは明らかです。また、山崎氏は近松の時代に上方（京阪地方）の浄瑠璃界において住吉大社をテーマに取り上げた「住吉社ブーム」があったことも併せて指摘しています。こうした流行の存在もあり、近松は『本朝三國志』で神功皇后とかわかりが深い住吉大社に注目し、秀吉の参詣先を住吉に設定したのではないのでしょうか。

以上、今回は『本朝三國志』の住吉詣記事に注目してみました。実は、この住吉詣記事がきっかけとなって、住吉大社は豊臣秀吉の伝記的資料に思わぬ形でかかわってくることになります。それについては、また次号でご紹介することにしましょう。



神功皇后をまつる住吉大社の第四本宮

#### 参考文献

- ・『近松全集』第十一巻（岩波書店、一九八九年）
- ・井上泰至・金時徳『秀吉の対外戦争…変容する語りとイメージ』（笠間書院、二〇一一年）
- ・北島万次『豊臣政権の対外認識と朝鮮侵略』（校倉書房、一九九〇年）
- ・久世奈欧「近世・近代初頭における神功皇后伝承―山城国伏見御香宮神社・桂女を中心に―」（『史料』九八巻五号、二〇一五年）
- ・須田努「江戸時代 民衆の朝鮮・朝鮮人観―浄瑠璃・歌舞伎というメディアを通じて―」（『思想』一〇二九号、二〇一〇年）
- ・富田康之『海音と近松 その表現と趣向』（北海道大学出版会、二〇〇四年）
- ・塚本明「神功皇后と近世日本の朝鮮観」（『史料』七九巻六号、一九九六年）
- ・山崎（正木）ゆみ「近世文芸と住吉社」（『儀礼文化』四三号、二〇一二年）



## 四天王寺 新管長様のご参拝

和宗総本山四天王寺の新管長に就任された加藤公俊様下はご就任の表敬訪問のため、同執事長の瀧藤尊淳様、西山純敬様と共に10月12日に当社にご参拝されました。

令和2年5月29日、加藤様下は第113世管長にご就任されましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、晋山式は寺院内のみで行ない、就任披露や各方面へのご挨拶は延期となりました。今回、各所へご挨拶まわりの初めに当社にご参拝をいただきました。

来る令和3年には四天王寺ゆかりの聖徳太子が薨御（※皇太子や大臣が死去すること）して1400年をむかえます。四天王寺では、同年10月18日の「聖徳太子千四百年御



聖忌」にむけて

事業を準備され、サントリー美術館の記念特別展「聖徳太子―日出づる処の天子―」などの企画を進められています。

大阪を代表する寺社として四天王寺管長と住吉大社宮司が、聖徳太子のご事績とご意志を敬慕しつつ、疫病禍で混迷する現代社会に対しての役割について意見交換を行いました。

## マークエステル様のご参拝

国際的なフランス人画家、マークエステル・スキャルシャフィキ様が9月12日に当社にご参拝されました。日本神話を題材に作品を多数制作され、全国神社123社に絵画を奉納しています。住吉大社にも平成22年11月14日、当社祭神を画題にした「伊邪那岐命、禊で生まれた幸福に満ちた海の神々」（神楽殿に展示）をご奉納いただいております。



## 住吉踊保存後援会

## 長谷川会長 神社本庁表彰



住吉踊保存後援会の会長、長谷川八重子様には、住吉大社では多年にわたるご奉仕をいただきました功績により、神社本庁から永年表彰状が贈呈されました（2月3日付）。住吉踊のほか、市戎大國講・御祓講獅子などにもご尽力をたまわっております。



# 裏千家献茶式

令和2年9月18日（金） 於第一本宮

奉仕 裏千家家元 坐忘斎 千宗室様



# 表千家献茶式

令和2年9月11日（金） 於神楽殿

奉仕 表千家宗匠 左海大様







平成 25 年 (2013) から取り組んでいる同事業は、当社御田植神事の苗床を地元の学校・幼稚園にもお分けし、稲作体験と案山子 (かかし) の作成、アイガモ農法への参加を通じ、稲作文化の継承と日本文化への理解をうながす「食育プログラム」であり、近年は国際交流にも発展したこともあり、神道文化の普及に貢献したことを評価されました。  
(事務局 岡 康史)

令和二年五月二十二日 一般財団法人 神道文化会

住吉かかしプロジェクト

「神道文化賞」受賞



#### 参加校・園

東粉浜小学校 (住吉区)・住吉幼稚園 (住吉区)・ひまわり幼稚園 (住吉区)・  
こぐま保育園 (住吉区)・太子橋小学校 (旭区)・よさみ幼稚園 (住吉区)・  
東粉浜幼稚園 (住吉区)・南港光小学校 (住之江区)・どんぐり保育園 (西成区)・  
墨江幼稚園 (住吉区)・府立農芸高等学校 (堺市美原区)・高殿小学校 (旭区)・  
あびこ幼稚園 (住吉区)・ほわいと保育園 (住吉区)・粉浜幼稚園 (住之江区)・  
特養老人ホームなごみ (住吉区)・八幡屋小学校 (港区)



# 社務日誌抄

(令和二年五月から一〇月分まで)

## 令和二年

### 五月

- 一日 緊急事態宣言(四月七日発出)により全閉門を継続中。朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。初辰大祭(参列停止、祈祷のみ奉仕)・楠瑞社例祭。本日予定の全国弓道大会開催中止。
- 四日 政府、緊急事態宣言を五月三十一日まで延長。当社閉門も同期間まで延長を決定。
- 一〇日 市戎大国社月次祭。
- 一二日 卯之葉神事(舞楽等奉納行事・参列停止)。
- 一三日 大海神社月次祭。
- 一四日 政府、緊急事態宣言の三九県を解除、但し大阪府を含む八都道府県は特定警戒都府県として指定継続。
- 一五日 十五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。長原恵美子氏来社奉賛。
- 一六日 緊急事態宣言一部解除、但し大阪府ほか八都道府県は特定警戒都府県として指定継続。
- 一七日 新宮社例祭。浅澤社例祭。
- 二〇日 海上交通安全祈願祭。
- 二二日 政府、緊急事態宣言の大阪・京都・兵庫の関西三府県を解除。
- 二二日 「住吉かしプロジェクト」神道文化賞を受賞(一般財団法人神道文化会)。
- 二五日 政府、緊急事態宣言を全国で解除。
- 二六日 御田耕起御田講(二五名奉仕)。
- 二七日 (学)浪速学院理事評議員会 神武権宮司出席。
- 二八日 浅沢社月次祭。住吉大社会計監査会、責任役員 太田重彦氏・専任会計士 山下孝士氏 小島康秀氏・神武権宮司 中野権禰宜・柳生 吉田 石橋主事出席。
- 三〇日 月末清掃。

### 六月

- 一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。貴船社例祭。  
四月八日から全閉門中のところ本日より瑞籬内(四本宮域)開門。本社の祈祷受付授与所等再開。授与所アクリル板設置、祈祷入場者制限等開始。
- 三日 神功皇后正辰祭、宮司参列(職員は第四本宮にて遥拝)。
- 四日 当社総所預 水江東宮氏来社 宮司面談。
- 五日 卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。住吉大社責任役員会・常任総代会・総代会(書面回議)。
- 六日 初辰祭(参列停止、祈祷のみ奉仕)。
- 七日 安立神輿会 太鼓台奉納奉告祭 南川孝司氏奉納、安立連合会長 中野紀久雄氏以下参列。
- 八日 本日より境内全域を開門。
- 九日 網干輝雄氏来社奉賛。松浦正人氏懇親会 宮司参会 宮崎権禰宜 随行。
- 一〇日 市戎大国社月次祭。ANA総合研究所篠原敏夫氏 中野秀治氏・関西大阪二一世紀協会 加藤祐嗣氏来社 宮司面談。
- 一一日 比賣許曾神社禰宜 故本間寛氏 逸見権禰宜弔問。
- 一二日 港住吉神社 副総代長 赤野久雄氏 磯中ミツ子・参与 野田直治氏・常任総代 森山加代子氏来社 就任奉告祭。
- 一三日 大海神社月次祭。御田代播・苗取等 御田講(二八名奉仕)。
- 一四日 御田植神事(神賑行事・参列停止。御田講 副講元 濱田孝氏・JA大阪市 代表理事組合長 菱井由一氏・同住吉支店長 山本良治氏・同住之江支店長 天野信子氏以下三三名奉仕。NHK大阪放送局 関西テレビ放送 大阪日日新聞取材)。
- 一五日 十五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。八所社例祭。住吉かしプロジェクト 早苗頒布。住吉大社セミナー中止。



- 一六日 住吉公園会議 小出権禰宜出席。
- 二〇日 海上交通安全祈願祭。昇龍祭氣龍画催事 小出権禰宜講師。
- 二二日 住吉踊保存後援会支部長会 神武権宮司 中野 宮崙 進藤 西角権禰宜出席。摂河泉文庫(南川孝司氏) 資料借用。
- 二三日 北川 一成氏 アトキンソンデービッドマーク氏 宮司面談。
- 二六日 大阪府神社庁榮譽委員会 宮司出席。東洋きもの専門学校 境内撮影。
- 二八日 浅沢社月次祭。
- 三〇日 禊行事。月末清掃。水無月大祓式。

## 七月

- 一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。職員辞令…神楽女見習 尾崎美優 渡邊希代果 森田知紗、神楽(女を命ず。社報『住吉っさん』第三四号発行。大阪市立住まい情報センター『あんじゅ』第八三号発行、宮司コラム掲載。令和二年五月二二日付 神道文化賞「住吉かしプロジェクト」受賞(一般財団法人神道文化会) 岡権禰宜拝受。
- 三日 大阪国学院錬成行事 動画資料収録 万力権禰宜講師。住吉名勝保存会事業打合会 小出権禰宜出席。
- 四日 大阪国学院通信教育部受講生 平岡照紹氏 神務実習受入。
- 六日 三重テレビ放送「ええじゃないか」チャンネルワイ氏 松島史奈氏 収録。
- 七日 星宮例祭。御神酒講講元 池田雅昭氏を当社総代に委嘱。
- 一〇日 市戎大國社月次祭。御田合鴨放鳥 大阪市立住吉幼稚園参加。テレビ大阪 大阪日日新聞 ベイコム取材。観光庁多角化事業実行に係る「神社の新たな観光方式を探る実行委員会」設立総会、高井宮司出席。
- 一二日 卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。東粉浜千度講参拝。
- 一二日 初辰祭(今月より参拝再開、祈禱は受付のみ)
- 一三日 大海神社月次祭。(株)伊藤園 茶缶一万本奉納。
- 一四日 港住吉神社宵宮祭、副総代長 赤野久雄氏以下八名参列(神賑行事等中止)。住吉名勝保存会 境港市視察表敬訪問 小出権禰宜同行。

- 一五日 十五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。港住吉神社例祭、副総代長 赤野久雄氏以下二二名参列(神賑行事等中止)。
- 一六日 故鈴木木洗氏(旧職員 元当社正禰宜) 通夜祭 富澤権宮司 奥野神人 奉仕、宮司会葬。
- 一七日 故鈴木洗氏葬場祭同奉仕 宮司会葬。BS会議 日下権禰宜出席。
- 一九日 粋心流星華吟詠会 宗家 池田哲星氏以下九名参拝。
- 二〇日 海上交通安全祈願祭。大阪船主会海上交通安全祈願祭、大阪船主会会長 小野晃彦氏、近畿海事広報協会会長 間嶋弘氏、近畿運輸局局長 野澤和行氏、大阪海上保安監部長 花井宏泰氏以下二二名参列。

## 二一日 斯主社例祭。関西ジャニーズ境内撮影。

二二日 大阪府文化財保護課 神谷悠実氏視察 高階権禰宜応対。故饗庭健介氏(翁道天津道住吉会 川畑権禰宜弔問)。

二三日 神輿洗神事(神賑行事中止・閉門後、第一本宮前庭にて汐掛等奉仕) 住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下二六名参列。小野田順子氏来社奉賛。

二五日 北前船交流・拡大機構 篠原敏夫氏、関西大阪二二世紀協会 加藤祐嗣氏来社 小出権禰宜応対。

二七日 大阪府文化財センター 定時評議員会 宮司出席 逸見権禰宜随行。

二八日 浅沢社月次祭。

三〇日 住吉祭 宵宮祭・神輿遷霊祭(神賑行事等停止、露店商出店不許可、通常閉門) 住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下一〇名参列。宮司以下祭員参籠。

三一日 住吉祭 例大祭(参列停止)。夏越祓神事(閉門後)。

## 八月

- 一日 住吉祭 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。桔梗献花式、平野坂上七名家当屋 土橋保樹氏奉仕。神輿渡御(鳳輦のみ渡御) 発輿祭・頓宮祭・荒和大祓神事・還輿祭・還霊祭。
- 二日 人形流神事、堺市沿岸漁業協同組合奉仕。
- 三日 住吉警察署 住吉消防署 住吉警察御礼挨拶 神武権宮司 岡権禰宜訪問。次年度神楽女新規採用選考現場説明会。
- 四日 卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。

五日 初辰祭。兵庫県たつの市神戸神社宮司 伊藤崇人氏来社 宮司面談。

七日 薄墨社例祭。

八日 大阪国学院前期スクーリング祭式 岡権禰宜講師。

一〇日 市戎大国社月次祭。

一二日 神宮奉賛会推進委員会会議 富澤権宮司出席。

一三日 大海神社月次祭。

一五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。フジテレビ「ミライ☆モンスター」砲丸投げ選手アツオビンジェイソン氏 境内収録。

一七日 甄物商常夜石燈籠改修工事安全祈願祭、大阪玩具人形住吉講 講元 熊本和浩氏以下講員・施工 中村石材工業等一〇名参列。朝日新聞取材。上野優氏来社奉賛。

一八日 十八日会 宮司出席（賀茂別雷神社） 逸見権禰宜随行。

一九日 次年度神楽女新規採用現場説明会。

二〇日 海上交通安全祈願祭。

二一日 BS会議 日下権禰宜出席。

二二日 大阪国学院前期スクーリング祭式 岡権禰宜講師。

二三日 田中勝弘氏来社奉賛。

二四日 御田防鳥網取設 御田講一七名奉仕。

二六日 大阪府神社庁第九支部役員会 日下権禰宜出席。毎日新聞「わたしの世界」取材。

二八日 浅沢社月次祭。

二九日 大阪国学院前期スクーリング祭式 岡権禰宜講師。神楽女新規採用現場説明会。

三〇日 吉祥殿ブライダルフェア。

三一日 月末清掃。職員会議。

## 九月

一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。楠社例祭。

二日 なにわ七幸会総会 進藤権禰宜出席（四天王寺）。

三日 御文庫図書閲覧。

四日 画家マークエステル氏来社。

五日 BS団会議 日下福山西角権禰宜出席。

七日 神道青年会教養研修会 名村権禰宜参加。

九日 卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。志賀神社例祭。

一〇日 初辰祭。市戎大国社月次祭。弓馬術礼法小笠原流宗家小笠原清忠氏来社。

一二日 献茶式、表千家宗匠 左海大氏以下奉仕。故松本明子氏通夜祭 宮司参列（名古屋市中 中野権禰宜随行）。

一二日 大阪国学院前期スクーリング祭式 岡権禰宜講師。

一三日 大海神社月次祭。

一四日 献詠俳句選者会 古賀しづれ氏 大橋既氏 森田純一郎氏 小杉伸一路氏 楠本義雄氏選考。第六五回大阪府従業員組合慰霊祭 富澤権宮司以下奉仕。枚岡神社権禰宜 上田勝弘氏・大阪護国神社権禰宜 藤田尚吉氏来社。表千家不審菴・半床庵 逸見権禰宜訪問。

一五日祭・疫病流行鎮静祈願祭。

一六日 (株)辰巳商会創業百周年御祝 宮司 神武権宮司訪問、富岡鉄斎書「福在勤儉」贈呈、名村 日下権禰宜随行。住吉税務署署長 西野佳代子氏来社。

一七日 献詠短歌選者会 佐沢邦子氏 安田純生氏 香川ヒサ氏選考。住吉公園百五十年記念事業会議 小出権禰宜出席。

一八日 献茶式、裏千家家元 坐忘斎千宗室氏以下奉仕。観光庁「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業、当社参加「神社の新たな観光方式を探索実行委員会」（会長 高井道弘）実施事業の採択通知。

一九日 児安社例祭。

二〇日 海上交通安全祈願祭。

二二日 皇霊殿遥拝式。招魂社秋季例祭。神馬塚 宮司参拝、高階権禰宜 随行。

二三日 観光庁採択事業打合せ 神武権宮司 小出権禰宜出席。

二四日 大阪神農商業協同組合住吉・住之江支部に対して正月の露店商 出店中止の伝達。神宮大麻暦頒布始奉告祭 富澤権宮司参列（神社庁）。裏千家今日庵 宮司訪問、逸見権禰宜随行。職員健康診断。映画「天外者」披露試写会 世古神楽女出席（大阪商工会議所）。

二五日 西村捨三書「寶丸」・藤原金穂画「官幣大社住吉神社大阪築港渡御之図」前田道郎氏奉納。吉祥殿ブライダルフェア。



二八日 (株)辰巳商会創業百周年記念大祭慰霊祭 神武権宮司以下奉仕。

二九日 観光庁採択事業リモート会議 小出権禰宜出席。

三〇日 月末清掃。職員会議。七五三撤下作製公開 朝日新聞 大阪日日新聞 奈良新聞取材。

## 一〇月

一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。観月祭(産経新聞社後援、(株)末廣堂協賛)、奉納行事および参列者なし、祭典披露のみ奉仕。献詠短歌天位「月の出にそろそろ帰り支度するコンバインからよいしょと下りて」若山巖氏・地位「朝闇を灘に傾く月の下體の延縄を船に引き上ぐ」向井靖雄氏・人位「ゆくりなき天行病に門を閉づ御社の千木高く風切る」玉野忘月氏、俳句天位「月白に復興の灯の又一つ」算双子氏・地位(※取消)・人位「傷つきし心に月の光かな」片岡橙更氏。

二日 (株)辰巳商会創業百周年報賽参拝。大阪府立大学名誉教授 前川寛和氏境内青石調査 小出権禰宜対応。大阪市立墨江小学校第五学年写生会 境内使用。

三日 卯之日祭・疫病流行鎮静祈願祭。

四日 初辰祭。生間流泡丁式。

六日 大阪府神社庁榮譽委員会 宮司出席。大阪市生涯学習まちづくり市民大学いちょうカレッジ講座 小出権禰宜講師(市立総合生涯学習センター)。BS会議 日下権禰宜出席(大阪聖愛教会)。

七日 大阪国際宗教同志会 富澤権宮司出席(金光教泉尾教会)。

九日 大蔵社例祭。大阪眼鏡商工連合会・めがねの碑維持管理委員会 祈願祭。弓馬術礼法小笠原流宗家小笠原清忠氏来社。住吉踊保存後援会支部長会 神武権宮司 中野 宮崎 進藤 西角権禰宜出席。

一〇日 市戎大國社月次祭。

一二日 神戸神社大鳥居竣工奉告祭 宮司 神武権宮司参列(兵庫県たつの市伊保川町) 逸見権禰宜随行。

一二日 和宗総本山四天王寺 第一・二・三代管長 加藤公俊氏・同執事長瀧藤尊淳氏・西山純敬氏来社参拝。

一三日 大海神社例祭、大海協議会 北村泰親氏・大阪市漁業協同組合 北村純一郎氏・(株)コーニッシュ 今村聖三氏・大海神社龍宮講員

以下崇敬者五三名参列。大海協議会海上安全祈願祭。

一五日 祭・疫病流行鎮静祈願祭。おいとしほし社秋季例祭。(公財)関西・二一世紀協会 理事長 崎本利樹氏来社。(株)蓬萊創立七十五周年社謝肉祭。生根神社名誉宮司 故堤逸郎氏通夜祭 富澤権宮司 万力権禰宜奉仕。観月祭献詠俳句 地位および佳作一句 両入選の取消措置。

一六日 龍社例祭。生根神社名誉宮司 故堤逸郎氏神葬祭 富澤権宮司 万力権禰宜奉仕。次年度神職神楽女採用試験。

一七日 神宮神嘗祭遥拝式。御田刈之儀 宝之市神事、御田講 濱田孝氏 山本巖氏奉仕。BS会議 日下 西角権禰宜出席。雑誌「家庭画報」楠珪社取材。

一八日 十八日会 宮司出席(北野天満宮) 逸見権禰宜随行。すみよし博覧会境内開催、菜種油奉納式、武田権禰宜対応。吉祥殿ブライダルフェア。

一九日 后土社例祭。

二〇日 海上交通安全祈願祭。天王寺楽所雅亮会 小野真龍氏来社。祭儀部会議。

二一日 船玉神社例祭、置田運送(株)置田貴之氏・(株)コーニッシュ 今村聖三氏以下参列。シニア自然大学校CIITYカレッジ部講座 小出権禰宜講師。

二二日 神仏霊場会 神仏合同国家安泰世界平和並びに疫病退散祈願祭 富澤権宮司奉仕。

二三日 BS会議 日下権禰宜出席。

二四日 大阪SGGクラブ研修会 小出権禰宜講師。

二六日 アサヒ飲料(株)七五三協賛 三ツ矢サイダー 缶五千本奉納。

二九日 御田稲刈 御田講奉仕(収穫高八石)。招魂社合祀祭(松本家)。職員インフルエンザ予防接種。故島野喜三氏お別れ会 宮司参列(ホテルニューオータニ大阪) 逸見権禰宜随行。市戎大國講例祭打合会 富澤権宮司 坂野 麻植 西角権禰宜出席。

三〇日 初詣警備会議。

三一日 月末清掃。住吉祭太鼓会会議 万力附柴権禰宜出席。

# 「住吉宝市」覚書

八木意知男



「宝船図」安江不空画 不空は本図に神功皇后伝を折り込めた

## はじめに

神功皇后は西の方に新羅国を征ち給うた（住吉大社神代記・日本書紀）。その国は「宝の国である」と住吉神は誨え給うた（住吉大社神代記・日本書紀）。そしてその結果として新羅国からの「春秋調貢」（住吉大社神代記）が約束された。

ところで、住吉大社には、旧九月十三日（現行十月十七日）「宝市」（「宝之市」「財市」とも）と「相撲会」なる行事が修されてあつた（大日本年中行事大全・住吉曆等）。この同日に修された二つの行事は、住吉神の誨えに依つた神功皇后の所謂三韓征伐と無縁ではない。伝えに依れば「犢鼻褌」の上に注連を纏ひて手合す。これすなはち三韓退治の体を表す。また財市といふは、三韓より献ずる貢物を当社に献らるるなり。（撰津名所図会）とある。しかし一方では「宝市は住吉社としての新嘗会である」（華夷年浪草等）との考えも存し、この考えに従つて現行十月十七日祭は復興したのである。

かかる中で敢えて「宝市」を考えることはここに住吉信仰史の一端が存するからに外ならない。



## 一、市の神「市姫」

住吉「宝市」には市社がまつられてあつたという。「昔は東の大鳥居の辺にあり」今の「侍者社」であつたという（住吉松葉大記）。「侍者社」は女体にして市姫という、或いは手搓見足尼（住吉大社神代記）と夫婦神とも伝う（住吉松葉大記）。

ところが、「市神」はこればかりではなく、神大市姫命（大山祇神女、神速進雄尊后、大年神母）、市杵島姫命（宗像三女神、弁財天習合）、恵比寿神（西宮社祭神）、事代主神等が考えられて来ている。中でも恵比寿神が商神なるが故に商人が集合する市場の神とも考え信仰する風が多くある。

例えば、小池内広（弥彦神社権宮司、平田鉄胤門、明治十年歿、号静室主人）の『諸祭神略記』でも

西宮の祭神を俗に事代主神と云なるは広田社と同時に事代主神を摂津国において長田神社と齋ひ祭られしによりて混へたるもの歟。俗に又えびす様ともなへて福神と称するは征韓のこ<sup>モハラ</sup>と専此広田大神の御意より出て胎中<sup>ハチマンノウ</sup>天皇によさし奉り給ひしより毎年に八十艘に積て金銀珠玉絹布をはしめ種々の珍宝を三韓より貢奉り及四海万国よりめづらしきものを皇国に奉るも皆此御神徳にて引寄せ給ふなればなるべし、又商神と称するも上古ハ人ノ心質朴にして売買といふ事もなかりけむを（但品と品とを交易しことはありけむ）右にいへる如く蕃国より金銀絹布を貢奉り国内に充滿しよりおのづから商売の道起発しも此御神徳によるなれハ商人等尊信し奉り来しなるべく其業に幸福へたまふ事うたがひあらし、姓氏録に商長首上<sup>アキノヲサ</sup>毛野同氏多奇波世君<sup>タケハセ</sup>ノ三世孫久比伯瀬部<sup>ハシセ</sup>ノ天皇ノ御世被<sup>レ</sup>遣<sup>ニ</sup>吳国<sup>ニ</sup>雜宝物等獻<sup>ル</sup>物命<sup>ヲ</sup>為<sup>ニ</sup>交易<sup>ニ</sup>其名<sup>ヲ</sup>云<sup>ニ</sup>波賀理<sup>ト</sup>、於天皇其中有<sup>ニ</sup>吳ノ權<sup>ニ</sup>、天皇勅此物也、久比奏曰<sup>クハハ</sup>吳ノ國<sup>ハ</sup>以懸<sup>ニ</sup>

定<sup>ム</sup>萬<sup>ヲ</sup>、天皇勅之勿<sup>レ</sup>令<sup>ニ</sup>他人同<sup>カラ</sup>、久比ノ男宗麻呂舒明天皇ノ御代負<sup>ニ</sup>商長ノ姓<sup>ヲ</sup>也、日本紀<sup>ニ</sup>漏<sup>ル</sup>と見えたり、此文或脱文或措乱なとありや輕にハ聞えがたきをこゝろみにいハゞ久比と云人吳国につかハされてくさゞの獻物交易物を持参りて天皇に奉りけるに、其中に権<sup>ハカリ</sup>ありしかハ天皇此ハ何に用る物ぞと問し給へハ云々と答へ奉りけれハ、しからハ汝一人其事を専ら掌りて他人に同じからしむる事なかと勅せ給ひ、其男宗麻呂にいたりて商長<sup>アキノサ</sup>の姓を負<sup>オヘ</sup>りとなるべし、これらを見てものにしへのさまを考へ察<sup>シ</sup>るべし、とある。

要するに、住吉宝市の祭神は市杵島姫命であつたり、恵比須神であつたり様々に考えられているのである、手搓見足尼夫婦二柱を当てることもあつたのである。手搓見足尼の配神が「市姫」であつたか否かは不知。しかし乍ら、元地主神が所の市の市神と祀られる例は他にも認められる。

たとえば、熱田神宮の市は年初年末に源太夫社前に設けられる。『熱田宮旧記』（熱田神宮史料）縁起（緒編）に

一日、尾張師介、一云、諸兄尼命、号<sup>ニ</sup>地主神<sup>ニ</sup>、然故在地人民納<sup>ニ</sup>所当<sup>ニ</sup>、海浜貢<sup>ニ</sup>進大小魚<sup>ニ</sup>、或於<sup>ニ</sup>神前<sup>ニ</sup>、年甫歳末、宮中村里人会集、而設<sup>ニ</sup>市店<sup>ニ</sup>為<sup>ニ</sup>売買<sup>ニ</sup>、

とあり、また、

初市之事  
正月五日、初市、源太夫社前、地下人迎<sup>ニ</sup>御福餅<sup>并</sup>  
松根深<sup>ニ</sup>、祝<sup>ニ</sup>福德<sup>ニ</sup>古実也、

とある。

つまり、「市姫」の「市」字は絶対条件ではなく、

住吉社として考えるならば手搓見足尼を市神と信仰する線も十分に有り得ることとなる。

摂津にあらざる他地において新市を立てる時、住吉神が勧請されたる例は、商人の巻物中の戦国時代写本とされる『秤の本地』（日本古典偽書叢刊第三巻所収）にみえる。

新市を立て候ふ時、商人の親方、櫛・針・秤、地頭へ持つて参るなり。また、地頭よりは明神の御前に兜・太刀・刀置かるるなり。また、商人北の方のおのおの御格をはじめ、その上談合におよび、白木の弓七丁・布十二反・代十貫、商人の子方たちこれをつないで、住吉の御前に置くなり。商人の親方、荒神の幣一本切り、一文字反閑散らし、反閑何も踏み、その後、太夫に祝詞を申させ、幕をうたせ大般若を読ませ申し、きつと御布施を申すなり。そののち、商人の子方たちに、住吉の御前に置き錢を十足を持つて参りたる者には、十錢繒につないでくるるなり。これについて「繒の口」といふなり。

これは、山伏に依り埼玉県岩槻市大戸の第六天神社（旧村社）へ伊勢神宮及び住吉社が勧請され新市が立てられた記録かも知れない。果たして然らば極めて重要な記憶ということになる。

## 二、「住吉宝市」の存在

「住吉宝市」に限らず、市は様々に行なわれた。例えば『枕草子』十一段や順徳院『八雲御抄』には多くの市の名が掲げられてある。ところがそこには「住吉の市」名も「宝市」名も無い。『夫木和歌抄』でも同じである。では「住吉宝市」は夢幻であつたのか。いや、そうではあるまい。

「住吉宝市」は確かに存在した。それは新羅・百済

国からの調貢を柱とする市であつた。しかしやがて彼我の政情容さず、港湾条件の劣化に依り立ち消えとなった。

三韓そして唐土からの調貢は『住吉大社神代記』に明らかである。

爰に新羅王波沙寐錦、即ち微叱己知波珍干岐を以て質として、仍りて金銀彩色及び綾羅縑絹を賣し、八十艘〔船〕に載せられて、官軍に従ひて賣し来らしむ。是を以て新羅王、常に八十船の調を以て日本〔国〕に貢る、其れ是の縁なり。

（『住吉大社史（上）』所載による。ただし、ルビ等は略。第二七二行〜二七六行。）

そして、

一、荷前二処・幣帛浜等の本縁

（中略）

右の荷前並びに幣帛浜等は、昔、氣長帯姫皇后の寄さし奉るところなり。爰に三韓の国の調貢は此の川より運び進る。而るに此の川に漂没れ、仍りて制あり。運漕ばず。吾君川より運漕ぶ。茲に因りて幣帛浜となす。姫神の坐す縁は是なり。

（『住吉大社神代記』第五〇〇行〜第五〇八行。）

と記されるところである。当然、応神天皇紀に

十六年の春二月に、王仁来り。則ち太子菟道稚郎子、師としたまふ。諸の典籍を王仁に習ひたまふ。通り達らずといふこと莫し。所謂王仁は、是書首等の始祖なり。

（岩波文庫版に依る。ルビは略した。）

とあるも、この流れの中にある。異国から齎されたる品は、布製・紙の一枚・砕けた陶器の一片迄も宝であつた。葉草の種ともなれば尚更のことである。



『神道史大辞典』（吉川弘文館、平成十六年）「市祭」項（佐伯有清執筆）に引く南北朝時代延文六年（一三六）年紀の武蔵国埼玉郡山槻付近一帯の市場で読まれた「市場祭文」（『武州文書』十五所収）には

住よしの浜に草木の市と名付けて、九月十三日に立けり、

とある由みえる。新種野菜類の渡来と菜種の舶来は、新たな賑わいを創造したに違いない。

なお、謡曲『岩船』では菊花が「住吉宝市」で売られたと思しいが、世阿弥元清作『芦刈』では

ワキ 「見申せば色色の物を売り候中に、難波の芦を御売り候事優しうこそ候へ。」

と難波の芦も売品であったと知られる。ただし、大治三年（一二二八）九月二十八日に社頭に参し催された『住吉歌合』等の内容に繋がるか否かは不明。

「住吉宝市」で穀類が売買されたか否かは知らない。しかしながら、草花の類が存した事は蓋然性が高いのかも知れない。なお、豊田武『増訂中世日本商業史の研究』（昭和二十七年、岩波書店）では「浜の市」を天王寺門前として居り、複雑な問題を含んでいると知れる。

### 三、升（枳）のこと

「住吉宝市」は「升市」とも称された。升や物尺・取鉢が販売されたからである。

元禄七年（一六九四）九月十三日には松尾芭蕉も詣で

升買うて分別かはる月見かな

と一合升を買った。又、天保五年に窓廼屋主人が上梓した『住吉詣狂歌集』には

住吉の久しき世々のためしこそ 升の市にもはかり知られぬ 淡坂屋客彦

後の夜の月のまろきに角の升

規矩を違へぬ御祭の市

武一

市人は升をうれとも住吉の 神のゐとくは斗られす

淡沼島方丸

等とある。「住吉宝市」の升は大層著名であった。

升は五穀・食塩・酒・醬油・酢・漆・小魚・繭等を対象とする容積を計測する衡器であり、商活動を行う上で必要不可欠なものである。すなわち商業行為の信用性を集約する。この衡器にたとえ私升ではあっても「住吉」あるいは「住吉神」・「住吉社」等と記されてあれば更なる信用の保証となり、そのことが米穀を中心とした大坂を支える力となったはずである。立呑みで「住吉」名の入った升に酒を溢れさせてくれる安心と喜び、これを信用と呼ばずに何を…。

商都大坂の発展は大商人の活躍ばかりではない。商人と庶人が同一の信仰基盤をもっていたところに築かれたものではないか、と思量される。

### おわりに

作者不明ながら、

さても帝の宣旨には、摂州津守の浦に初めて浜の市を立て、高麗唐土の宝を買ひ取れとの宣旨を蒙り、唯今摂州津守の浦へ下向仕り候。

と謡う謡曲『岩船』は、祝言の意が濃い。はたして然らば、「住吉宝市」は初夢の「宝舟」図と通い合う世界と結びつくと考えられる。

（住吉大社教学顧問・京都女子大学名誉教授）

# 令和3年初詣に於ける

## 住吉大社の感染症対策について

住吉大社は、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を踏まえ「変わらない祈りのために」事務局（神社本庁協力・大阪府神社庁賛同）が作成の「神社における新型コロナウイルス対応ガイドライン」（第一版・大阪）を基に、参拝者と職員の健康と安全の確保を最優先に対策を徹底し、安心してご参拝いただける環境整備に努めてまいります。

- ① 初詣は2月2日（節分）迄の分散参拝を勧奨します。
- ② 混雑状況により入場を制限する場合があります。
- ③ 12月31日～1月5日まで、露店の出店はありません。
- ④ 1月1日～5日まで、午後6時に閉門します。
- ⑤ 来場者の密接を避けるため、臨時駐輪場を分散して開設します。
- ⑥ 体調がすぐれない場合や発熱のある場合などは、来場をおひかえいただきます。
- ⑦ マスクを着用し、間隔を空けて参拝していただくよう広報します。
- ⑧ 各所にアルコール消毒液を準備します。
- ⑨ 社務所・祈禱所の各所に次亜塩素酸空間除菌脱臭機を設置しています。
- ⑩ 社務所・祈禱所のドアノブ、祈禱用椅子、トイレ等に抗ウイルス処理を施します。
- ⑪ おみくじの筒に抗ウイルス処理を施します。また、筒を触らずにおみくじが引ける、スマートフォンアプリの活用を勧奨します。
- ⑫ 感染症対策実施マニュアルを作成し職員の衛生管理に努めます。

これからの状況を踏まえ、随時対応策を検討・導入して参ります。  
ご崇敬の皆様が気持ち良く参拝できるよう、関係機関と連携しながら準備を進めてまいります。

住吉大社

### 住吉大社 SNS



HP



Instagram



Facebook



# 令和三年（二〇二一）

## 上半期の祭事暦

|           |       |                                     |                 |
|-----------|-------|-------------------------------------|-----------------|
| 1月1日 (祝)  | 5時    | 若水の儀<br>わかみづのぎ                      | 第四本宮前神井         |
| 3日 (日)    | 8時    | 元旦祭 (中祭)<br>げんじさい                   | 第一本宮・撰末社        |
| 4日 (月)    | 13時   | 元始祭<br>げんしさい                        | 第一本宮            |
| 7日 (木)    | 11時   | 踏歌神事<br>たふかみしんじ                     | 第一本宮            |
| 9日 (土)    | 10時   | 白馬神事・昭和天皇陵遙拝式<br>しらばこみしんじ           | 第一本宮            |
| 10日 (日)   | 10時   | 市戎大国社宵宮祭 (宵えびす)<br>いちりやうこくこくやうきやうさい | 末社市戎大国社         |
| 12日 (火)   | 11時   | 市戎大国社宵宮祭 (本えびす)<br>いちりやうこくこくやうきやうさい | 末社市戎大国社         |
| 13日 (水)   | 10時   | 若宮八幡宮例祭 (湯立神事)<br>わきみややへふたみやうれいさい   | 撰社若宮八幡宮         |
| 15日 (金)   | 9時    | 御結鎮神事<br>みむすびつちんしんじ                 | 第一本宮・武道館前弓場     |
| 2月1日 (月)  | 10時   | 古札焼納式 (とんど)<br>ふるざしやうなうしき           | 南駐車場            |
| 2月27日 (水) | 10時   | 新年献詠祭<br>しんねんけんていさい                 | 第一本宮            |
| 2月27日 (水) | 10時   | 今主社例祭<br>いまぬしやうれいさい                 | 末社今主社           |
| 2月27日 (水) | 10時   | 立聞社例祭<br>たちききやうれいさい                 | 末社立聞社           |
| 2月27日 (水) | 10時   | 海士子社例祭<br>かいしこやうれいさい                | 末社海士子社          |
| 2月27日 (水) | 10時   | 節分祭・追儺歩射式<br>せぶんさい                  | 第一本宮・神館         |
| 2月27日 (水) | 10時   | 紀元祭 (中祭・橿原神宮遙拝式)<br>きげんさい           | 第一本宮            |
| 2月27日 (水) | 10時   | 天長祭 (中祭)<br>てんぢやうさい                 | 第一本宮            |
| 2月27日 (水) | 10時   | 侍者社例祭<br>しやうしやうやうれいさい               | 末社侍者社           |
| 2月27日 (水) | 10時   | 種貸社神種頒賜祭<br>しゆかいやうしんしゆはんきさい         | 末社種貸社           |
| 3月5日 (金)  | 10時   | 祈年祭 (大祭)<br>しんねんさい                  | 第一本宮            |
| 3月5日 (金)  | 9時30分 | 皇靈殿遙拝式<br>すうりやうでんてうはいしき             | 神楽殿             |
| 3月23日 (祝) | 10時   | 招魂社春季例祭<br>しやうこんやうしゆんれいさい           | 末社招魂社           |
| 4月3日 (土)  | 10時   | 松苗神事・神武天皇陵遙拝式<br>まつなえしんじ            | 第一本宮            |
| 4月6日 (火)  | 10時   | 正印殿祭<br>しやういんでんさい                   | 住吉行宮正印殿跡        |
| 4月15日 (木) | 10時   | 五社春季例祭<br>ごしやうしやうしゆんれいさい            | 末社五社            |
| 4月15日 (木) | 10時   | 種貸社例祭<br>しゆかいやうやうれいさい               | 末社種貸社           |
| 4月15日 (木) | 10時   | 港住吉神社楠玉稻荷社例祭<br>こうすけしんじ             | 境外末社港住吉神社内楠玉稻荷社 |
| 4月15日 (木) | 10時   | 鈴社例祭<br>すずやうれいさい                    | 末社鈴社            |
| 4月15日 (木) | 10時   | おいとしばし社春季例祭<br>おいとしばしやうしゆんれいさい      | 末社鈴社            |
| 4月15日 (木) | 10時   | 島津忠久公誕生記念祭<br>しまづただひさかつうたんじねんきねんさい  | 誕生石             |
| 5月1日 (土)  | 8時    | 昭和祭 (中祭)<br>しやうわさい                  | 第一本宮            |
| 5月1日 (土)  | 13時   | 全国弓道大会祈願祭<br>ぜんこくきやうだうたいかい          | 第一本宮・武道館前弓場     |
| 5月1日 (土)  | 6時    | 卯之葉神事<br>うのへしんじ                     | 第一本宮            |
| 5月8日 (土)  | 6時    | 初辰大祭<br>はつたつだいさい                    | 末社種貸社・楠瑠社       |
| 6月1日 (火)  | 10時   | 浅澤杜例祭<br>あさわきやうれいさい                 | 浅澤社・大蔵社         |
| 6月1日 (火)  | 10時   | 貴船社例祭<br>きふねやうれいさい                  | 末社楠瑠社           |
| 6月1日 (火)  | 10時   | 御田植神事<br>みたえしんじ                     | 末社新宮社           |
| 6月1日 (火)  | 10時   | 八所社例祭<br>やっしやうれいさい                  | 末社浅澤社           |
| 6月15日 (火) | 10時   | 大祓式<br>おほはらいしき                      | 末社貴船社           |
| 6月17日 (月) | 8時    | 【重要無形民俗文化財】<br>御田植神事                | 第一本宮・御田         |
| 6月30日 (水) | 15時   | 幸寿門 (正面門)                           | 末社八所社           |

※朔日・卯之日・海上交通安全祈願祭などの恒例祭に準ずるものは省略

### 元祖 さつま焼 (登録商標)

さつま焼はその昔

住吉の物産であつたさつま芋を

形どつたなにわの味、

昔からの銘菓であります。

十勝小豆を精製した

淡泊な味のこしあんを、

秘伝の皮で包み、

心を込めて、一本一本竹串に刺して

焼き上げております。

幾星霜の老舗の味を、ご賞味ください。

摂津一之宮 住吉大社御用達御神饌調達処

御菓子司

株式会社

東廣堂

本店 大阪市住吉区東粉浜三丁目一ノ二一四

TEL 〇六(六六七)四四二八

〇六(六六七)八八一三〇

FAX 〇六(六六七)三〇一九

第35号の表紙 諏物商常夜石燈籠

諏物商住吉講 / 大阪玩具・人形住吉講の奉納 (※本誌3頁参照)



日本の伝統  
花嫁の正統。

 住吉大社吉祥殿

Tel 06-6675-3591 fax 06-6675-3311

URL <http://www.sumiyoshitaisha.jp>

〒558-0045 大阪市住吉区住吉 2-9-89

住吉大社吉祥殿まで（水曜定休日）

令和2年（2020）12月15日発行（年2回発行）

発行人

高井道弘

発行

住吉大社

住所

大阪市住吉区住吉2丁目9番89号

TeI

06・6672・0753

印刷

真生印刷株式会社